Japanese Journal of Applied Psychology
1987, No. 12., 59-66

## 現場からの便り

# 青年・成人期になった自閉症児の療育と指導

## ——あさけ学園における実践から——

# AN APPROACH FOR AUTISTIC ADOLESCENTS AND ADULTS

## ——THE TRAINING AND GUIDANCE IN ASAKE GAKUEN——

近　藤　　裕　彦*
Yasuhiko KONDO

### 1. はじめに

自閉症児に関する研究発表が比較的多くなされている学会を抽出してみると，そのひとつに日本特殊教育学会があげられる。はじめに，昨年東京学芸大学で開催された同学会の第24回大会発表論文集における発表内容を振り返り，現在の自閉症児の療育・指導に関する研究動向を検索していく。同学会の場合，自閉症児に関する研究のほとんどが「情緒障害・問題行動」部門に集中しているようである。第24回大会についてみると，この部門全体で34題の発表があり，そのうち自閉症児に関するものは22題（65%）と過半数を占めている。ただしこの中には，当日発表取り消しになったものも含んでいる。研究分野および対象児の年齢区分について，概略を表1に示す。まず研究分野であるが，療育・指導9題（40.9%）と最も多く，ついで検査・評価，実験・観察（行動分析），基礎研究の順になっている。次に年齢区分をみると，学齢期（小学校～高校）が14題（63.6%）と高率を示している。学齢期にある対象の大部分は，情緒障害児学級，特殊学級，養護学校などに通っている。対照的に，学齢期以降の青年・成人期に達した自閉症（年長自閉症児あるいは自閉症成人と呼ぶ）に関する発表は2題(9.1%）にすぎなかった。特殊教育学会という性質上当然なのかもしれないが，年長自閉症児への取組みがまだ進んでいないことがわかる。最後に，研究分野と年齢区分とを対応させてみていくと，幼児については療育・指導に関する発表が多くなっている点，そして学齢期はあらゆる分野にわたっている点がみとめられる。さらに，発表者および連名発表者の所属する機関について集計した結果，大学や研究所が10題（45.5%），大学・研究所と学校による共同研究が6題（27.3%），その他の教育機関が6題（27.3%）となっている。これらの結果から，学齢期における自閉症児の療育・指導は専門的な教育機関からの援助を基盤として，体系的に進められていることが予測される。

表1　日本特殊教育学会第24回大会「情緒障害・問題行動」部門における自閉症児に関する発表の内訳

| 研究分野＼年齢 | 幼児期 | 学齢期 | 学齢期以降 | 計 |
|---|---|---|---|---|
| 基礎研究 | | 4 | | 4 |
| 実験・観察 | 2 | 2 | | 4 |
| 検査・評価 | | 3 | 2 | 5 |
| 療育・指導 | 4 | 5 | | 9 |
| 小計 | 6 | 14 | 2 | 22 |

こうした療育・指導への取り組みの背景には，次のような流れが考えられる。つまり，Kanner, L. が「早期幼児自閉症」を世に出してから40余年が経過しているわけだが，その本態と原因・治療方法について，この間，心因論から中枢神経系の障害を想定した「全般的発達障害」へと，いわゆるコペルニクス的転回（中根，1978）を呈している。この基本となったが，さまざまな追跡研究による知見である。主な例をあげると，

1）青年・成人期になってからのてんかん発作や脳波異常の出現

2）自閉症児に特有な障害や問題行動は，青年・成人期になっても残存しているケースがほとんどである。

*（社福）檜の里　あさけ学園
Asake Gakuen by Hinoki-no-Sato : Social Juridical Person

3）大部分の自閉症児に精神発達遅滞が合併する。

4）年長自閉症児における神経心理学的アプローチの有効性などである。

脳の何らかの障害を念頭に置いた診断基準として，Rutter, M. のものをあげる。

① 生後30か月以前の発症

② 社会的発達の障害

③ 言語発達の遅れと異常

④ 常同的な遊びのパターン，異常な没頭あるいは変化への低抗などで示される，同じであることへの固執

**2. 年長自閉症児における言語障害の特徴について**

Rutter の診断基準を整理すると，自閉症は脳の機能的あるいは器質的障害を基本的障害とする，言語発達を含めた対人関係のまずさや社会適応の困難な障害といえる。しかしながら，小論で扱かう年長自閉症児においては，幼児期の症状からいくつかの変化がみとめられる。十亀（1978）は，下記のような年長自閉症児の特徴をあげ，この時期での積極的な治療教育の必要性を強調している。

1）自閉性の軽減と応答能力の増加

2）感情的反応の増加

3）身体的成長と養育者との関係

4）性的関心の増加と関心の外拡化

5）羞恥心の少なさと無頓着

6）学習における進歩

こうした意味から，前述した年長自閉症児に対する神経心理学的アプローチが有効となってくる。これに加え，われわれは従来の心理検査を含めたテスト＝バッテリーを編成し，療育・指導の基本的能力となる諸機能の評価を実施している。

a．一般的知能

b．視覚―運動機能

c．言語機能

d．作業適性

e．社会性・日常生活動作

この項では，c. 言語機能について自閉症児の特徴を記述していく。言語機能は，日常生活や作業場面でどのような指示を与えていくか（指示の理解），および表出能力の両側面から課題場面を設定する上で重要視している。そこで標準失語症検査（以下 SLTA と略す）を用い，年長自閉症児の言語障害の特徴を明らかにし，同時に他の言語能力に関する測度との関連性を検討する。

(1) 方法

あさけ学園入所者中，SLTA の実施可能な年長自閉症児18名を対象としている。他の言語機能検査（TK ビネー知能検査，ITPA 言語学習能力診断検査，言語発達診断検査）とテスト＝バッテリーを組んでいる。

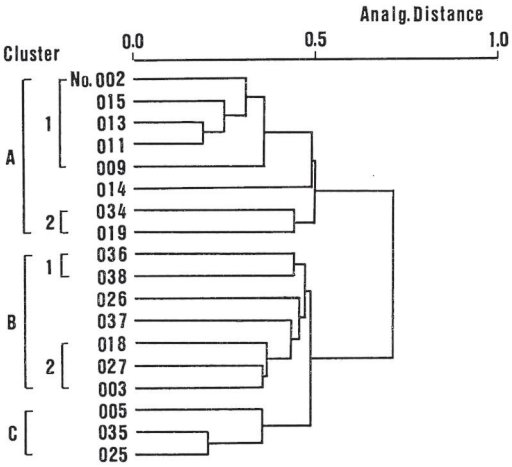


図 1 SLTA各下位検査に関する年長自閉症児18名のクラスター分析（Qモード）

結果の処理は次のとおりである。

1) SLTA の各下位検査粗点について，18名全員のクラスター分析（Qモード）を行ない，樹状図を図1に示す。

2) それぞれのクラスターについて，他の言語機能検査結果の分布を図2～4に示し，比較検討する。

(2) 結果と考察

図1にみられるように，年長自閉症児18名中15名が5つのクラスターに属している。図2～4に明らかなように，A～C の軸は一般的知能や言語機能の能力的側面により分けられる。一方，1～2は SLTA による言語障害の特徴を表わしている。

各クラスターの特徴について簡単にふれていく。

A―1クラスター‥ほとんどの下位検査でZ得点が－1以下の低い値になっている。成員すべてが，てんかんなどの器質的障害を合併している。読字・書字とも不可。

A－2クラスター‥A―1クラスターと比べ，単語の理解および仮名の読み書きが可能であるが，他の下位検査は低くなっている。あくまでも文字の読み書きにとどまり，単語や文章レベルでの読み書きは困難である。これは，ITPA の連合能力の落ち込みと対応していると考えられる。

B―1クラスター‥ITPA でいう「聴覚優位」なクラスターと考えられる。ある程度の短文や動作の理解が可能である。しかし，B―2と比較して漢字の読み書きの面で劣る。視覚的な空間認知障害の存在が示唆される。

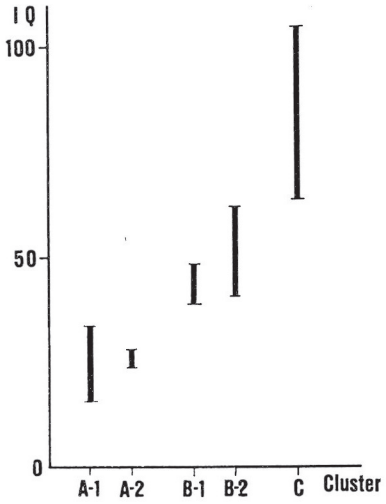


図 2　各クラスターについての IQ 分析（TK ビネー知能検査）

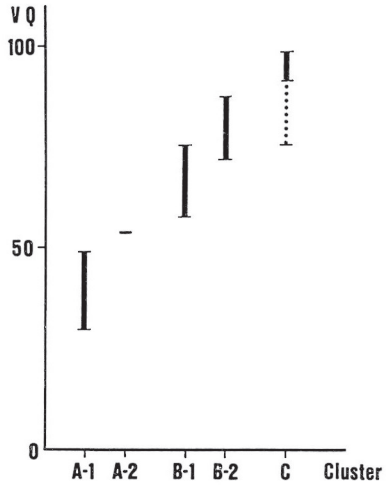


図 4　各クラスターについての VQ 分布（言語発達診断検査）

B−2クラスター‥Bクラスター全般に，複雑な指示の理解，状況の理解，まんがの説明が困難である。B−1クラスターと異なるのは，文字や単語の理解，読み書き，加減算は比較的良好な反面，動作や短文の理解が困難な点と考えられる。ITPA の「視覚優位」，WISC-R にみられる「動作性優位」，「数唱の突出」など，最も顕著な自閉症児の特徴がみとめられる。

Cクラスター‥他の言語機能と同様，ほとんどの下位検査で plateou に達している。個人的に，若干の落ち込みがみられる。

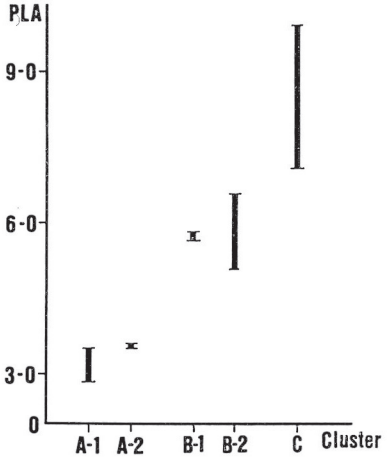


図 3　各クラスターについての全 PLA 分布（ITPA 言語学習能力診断検査）

### 3.　あさけ学園の概要

就学前および学齢期における療育・指導の充実に対して，学齢期以降の自閉症児への取り組みについては数少ないことを先に記した。小論では，昭和56年６月に開所した，日本で初めての自閉症成人施設「社会福祉法人檜の里あさけ学園」の療育・指導について紹介していく。ところが，法的に自閉症成人施設というものは存在せず，精神薄弱者更生施設（収容）の範ちゅうで運営されている。現在，定員40名すべて入所している。うち男子30名，女子10名から成る。女子が少ないのは，自閉症児全般に男子の多いこと（男女比が４～５：１，極端には10：１という学者もいる）に起因している。年齢は15～37歳まで分布している。診断別にみると，幼少時に「自閉症」等の医学的診断を受けた者30名，その他精神発達遅滞児（者）10名となっている。IQ 分布は測定不能レベルから IQ 75以上の軽度レベルまで広い範囲にある。県内からの入所が過半数を越えているが，遠くは東京都や大分県から入所している例もある。

療育目標は「自閉症成人が生き生きと生活できる場の確立」であり，換言すると，成人になった自閉症児を単に保護するのではなく，彼らなりに社会の一員として自立し，豊かな人生を送るよう援助する場でありたいと考えている。そして，その媒介として作業（労働・仕事）を位置づけている。作業（労働・仕事）―生活（日常生活・余暇）との関係を図５に，あさけ学園の日課を表２に示す。すなわち個々の障害をふまえ，できる限りの社会的自立（社会参加）を成就するという意味から，あさけ学園での療育・指導の中心は具体的かつ現実的な場面や日課の設定，および日常生活のやりとりの中にあると

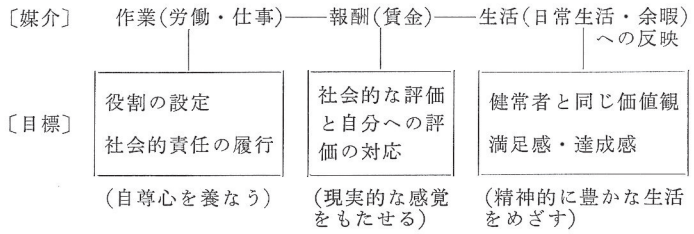


図 5　療育目標における作業（労働・仕事)—生活(日常生活・余暇）の関係図式

表 2　あ さ け 学 園 の 日 課

| 曜／時 | 月 ～ 金 | 土 | 日・祭日 |
|---|---|---|---|
| 6：30 | 起床，ふとんたたみ<br>洗面，(木のみリネン交換)<br>居室の掃除 | (左と同じ) | ＊スケジュールにより，起床のこともある。 |
| 7：00<br>7：30 | 食堂にて朝食<br>洗たく，洗たく干し<br>食堂掃除　月　水　金　A棟<br>火　木　土　B棟<br>ふろ掃除　居住棟内掃除 | (左と同じ) | 起　床　ふとんたたみ<br>洗　面<br>居室の掃除 |
| 8：00 | 自由時間（コーヒータイム） | (左と同じ) | 棟にて朝食，後片付け<br>居室棟内掃除　ふろ掃除 |
| 9：00 | 作業準備 | (左と同じ) | |
| 9：30 | 作　　業 | (左と同じ) | 自由時間 ex) AM 掃除，タンス整理（特に日常できにくい所の掃除をする） |
| 11：30 | 終了　うがい，手洗い | (左と同じ) | |
| 12：00 | 作業棟にて昼食<br>休憩時間 | 食堂にて昼食<br>食堂掃除（朝と同じ）<br>自由時間<br>ex）運　動<br>運動公園でソフトボールの試合 | 食堂にて昼食<br>（スケジュールにより，弁当，外食のこともある）<br>自由時間<br>ex）外出（フィールドアスレチック）車に分乗していく |
| 1：00 | 作　　業 | | |
| 3：30 | 終　　了<br>自由時間　買物，運動，TV etc<br>洗たく物取り入れ | | |
| 5：00 | 洗たく物収納 | 洗たく物取り入れ<br>洗たく物収納 | 洗たく物取り入れ<br>洗たく物収納 |
| 6：00 | 棟へ食事を運ぶ<br>夕食，後片付け<br>入浴（AB男女交代にて）<br>自由時間　学習，日記，夜食 etc | 棟へ食事を運ぶ<br>夕食，後片付け<br>入浴（AB男女交代にて）<br>自由時間<br>学習，日記，夜食 etc | 棟へ食事を運ぶ<br>夕食，後片付け<br>入浴（AB男女交代にて）<br>自由時間　学習，日記，夜食 etc |
| 10：00 | 就　　床 | ＊就寝時間は定まっていない | 就　　床 |

いえよう。

### 4.　作業の段階的指導プログラムについて

あさけ学園における療育・指導の基幹を成すものとして，作業（労働・仕事）—生活（日常生活・余暇）をあげた。ここではその中の作業指導について検討していく。

(1) 作業場面の設定

表 3　各作業科の作業内容（概要）

| 項目 ＼ 作業科 | 場面 | | 入数 | 姿勢 | 運動 | 作業内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 職場実習 | 施設外 | 多様 | 14 | 多様 | 多様 | 多様 |
| 外部作業所 | 外 | 屋内 | 12 | 座位 | 指先・手先 | アルミサッシ部品組立 |
| 木工科 | 施設内 | 内 | 6 | 立位 | 手先・腕 | 焼杉みがき作業 |
| 農園芸科 | 内 | 屋外 | 8 | 移動 | 粗大運動 | 畑作 |

（昭和62年２月１日現在）

日課からみると，月～金曜日（平日）と土～日曜日に大きく分けられる。平日は作業の日，土～日曜日は休みの日と意味づけられている。さらに作業と生活につきて，以下のように区別し，理解しやすくしている。

a.　居住棟（生活の場）と作業棟（仕事の場）を別棟に設けた。

b.　作業場面は，場面の構造化や時間の制約などの枠づけがはっきりしている。それに対して，生活場面では時間の制約を設けず，臨機応変な対応ができる。

(2) 作業の内容

図１の目標「現実的な感覚をもたせる」は単に報酬（賃金）に頼るだけでなく，地域の人達からの評価（外部基準による評価，対して，内部基準による評価とは指導員による評価をさす）を受けることによって，現実的な考え方や行動を身につけていくことも加えられている。こうした意味からも，作業内容に地場産業を取り入れているのが特徴的である。表３は，あさけ学園の各作業料について作業内容を概括したものである。各作業科（グループ）は10名前後で構成され，入所者全員がいずれかの科に属している。

このうち外部作業所というのは，工場の一部を間借りして受注作業を行なっているものである。通勤には自転車などを使用して，入所者と指導員が一緒に出発する。施設側からするとより社会的な作業場面が得られること，事業所の側からは，材料や製品の搬出入が合理的になるという利点を有している。

作業棟で作られた製品は，バザーや「福祉の店」（四日市ジャスコにある市社協の協同店舗）などで販売している。報酬は，給料という形で各個人に支給される。また報酬はその意味（e.g. 報償関係，金銭の理解，自己評価など）を理解できないと効果が少ないため，それぞれに適合した報酬の与え方を工夫しなければならない。

(3) 職場実習について

これら施設内作業以外に，職場実習の制度を使って，

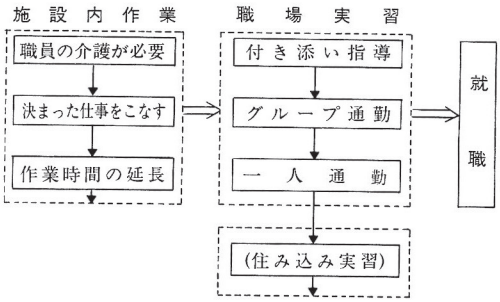


図 6　作業の段階的指導プログラム

近隣の事業所に働きに出ている者も10名を数えるようになった。本来職場実習に出す場合には，「就労が可能とみられるので，その前段階として職場実習に出す」のが中心であった。けれども，あさけ学園から職場実習に出している年長自閉症児の多くは，「作業の技術はある程度有しているが，保護的な作業条件の必要」なケースであり，日常生活場面においても何らかの注意を必要とする。こうしたケースについて，職場に定着するための要因を次に記していく。

a.　理解しやすい指示や仕事の場面を選択する。

1)　作業工程の理解しやすい状況やルールを設定する。

2)　生産量や失敗が理解しやすい対応の方法や場面を工夫する。

3)　ある程度まで行動をパターン化し，枠（frame）をつくる。

b.　問題行動の減少をはかる。

c.　日常生活動作を確立する。

d.　余暇活動を充実させる。

e.　事業所と学園が綿密に連絡をとり，相互理解をはかる。

以上の (1)～(3) をまとめ，施設内作業と職場実習との関連性，および作業の段階的指導プログラムを図６

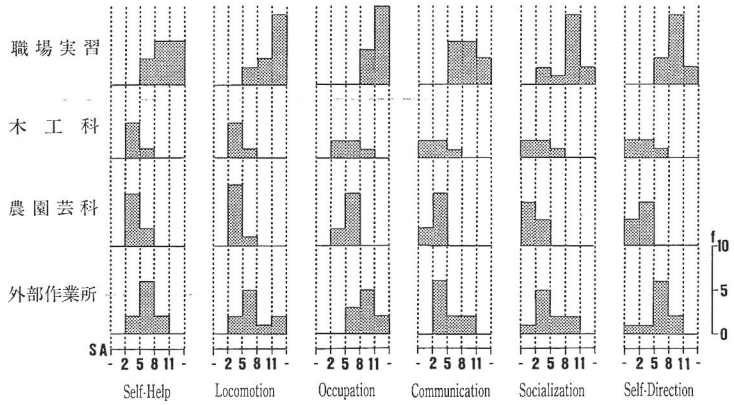


図 7　各作業科成員について6領域の社会年齢(SA)の分布

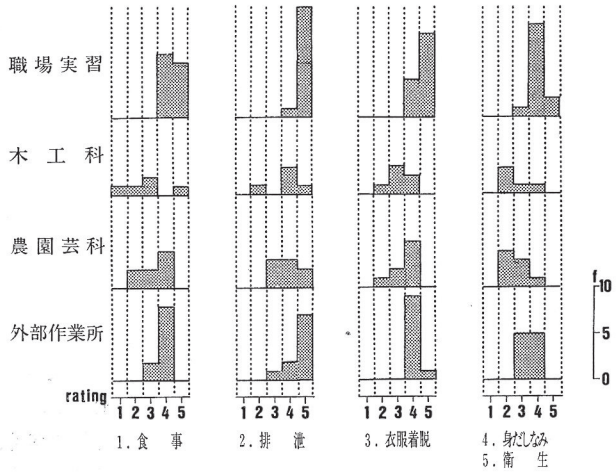


図 8　各作業科成員について日常生活動作の評定段階の分布

に示す。この作業段階については，作業能力だけでなく，日常生活能力や社会性を加えて総合的に検討していく必要がある。

(4) 各作業科編成と諸機能（日常生活能力，社会性）との関連性について

①各作業科編成と社会生活能力との関連性について

図7は各作業科成員について，S-M 社会生活能力検査（新版）における6領域の社会年齢（SA）分布を示したものである。全般的に職場実習が最も良好で，つづいて外部作業所，最後に木工科と農園芸科の順になっている。領域別にみると，左の3領域（身辺自立，移動，作業）に比べて，右の3領域（意志交換，集団参加，自己統制）の方が，職場実習とそれ以外の作業科との差異は大きくなっている。右の3領域というと，協調性，対人関係，新しい課題への適応性，tolerance などが関与しているため，職場実習以外の3つの作業科メンバーについて，社会参加の程度がかなり限定されるように思える。

②各作業科編成と日常生活動作との関連性について

図8のとおり，各作業科成員ごとに日常生活動作に関する評価段階の分布を示した。この評価段階はすべて5段階評定を用い，次の4項目からなる自作のチェックリストである。

1)　食事
2)　排泄
3)　衣服着脱
4)・5)　身だしなみ・衛生

職場実習はほとんどが段階4～5の plateou 状態にあり，日常生活動作はほぼ確立しているといえる。しかし他の作業科メンバーについては。「2. 排泄」を除き，不充分なことがわかった。日常生活動作は職場実習への定着要因のひとつにもあげたとおり，施設外部者からの評

表 4　昭和61年度の地域行事，関連団体行事，その他

| | 学園内行事 | 地　域　行　事 | 関連団体行事 | 余 暇 ク ラ ブ | 棟 ・ レ ク |
|---|---|---|---|---|---|
| 4 | | 杉谷カラオケ大会<br>八　風　競　馬 | | MC　音楽クラブ<br>SC　スポーツクラブ | 夕食　外出A・B |
| 5 | | 菰野町オリエンテーリング | 愛護潮干狩り | MC | 夕食 |
| 6 | 創立記念日 | | | MC　SC | 夕食　外出A・B |
| 7 | キ ャ ン プ | | | MC | |
| 8 | | 杉谷盆おどり | | SC | 外出 |
| 9 | | 菰野町ふれあい広場 | 愛護スポーツ大会 | | 夕食 |
| 10 | スポーツ大会 | 菰野町産業文化祭 | あすなろ文化祭<br>十亀記念会 | MC　SC | 夕食　外出A・B |
| 11 | | | | MC | 夕食 |
| 12 | 望　年　会 | 菰野町マラソン大会 | 観　劇 | SC | 夕食　外出A・B |
| 1 | 初　詣<br>もちつき | 菰野町成人式 | | MC | 夕食 |
| 2 | | | | MC　SC | 夕食　外出A・B |
| 3 | 親 子 旅 行 | 菰野町駅伝大会<br>四日市シテイマラソン | | MC | 夕食 |

価で大きな比重を占めるため，社会参加を促進する上で常時注意の必要な側面と考えられる。

### 5.　日常生活における余暇への取り組みについて

余暇活動は，社会的自立をめざす上で作業（労働）に匹敵するほどの重要性をもっている（図1参照）。最後に4の作業指導につづき，あさけ学園における余暇活動の目的・意義について考えていく。

(1) 余暇活動とは「豊かな生活を追求すること」である。

自分から積極的に余暇に取り組んだり，それを有効に楽しむことが困難なケースは数多くみとめられる（自発性の欠如と共に年長自閉症児の特徴とされている。Schopler, E. ら，1983)。そこで生活や余暇活動のバリエーションを増やし，その中から自発的・計画的に選択し，余暇を過ごすようにするという意味から，余暇活動を体系的に導入する必要がある。

(2) 作業（労働）を促進する。

社会的自立を目的とした作業には，「楽しい作業をする」こと以上に，「作業をきちんと遂行した結果，生活に楽しみが加わる」ことに力点が置かれる。そのための媒介が報酬（給料）や余暇（作業以外の時間）と考えている。合わせて，休憩時間の過ごし方や休日の余暇活動の充実によって，仕事への取りかかりが良くなること，問題行動の減少することが見出されている。

(3) 地域社会との関わりを深める。

地域社会に根ざし，その一員としての生活を送る。具体的には，表4に昭和61年度における地域行事や関連団体行事を示す。これらの行事は大きく次の①～④に分けられる。

①地域の催しに参加する行事

盆踊り，成人式，マラソン大会など

②学園が主催し，地域の人達を招待する行事

開園記念日，望年会（新たに新年に望むの意。誤植ではない)，もちつきなど

③保護者が参加する行事

学園スポーツ大会，親子旅行など

④その他の行事

キャンプ，家庭帰省（春，夏，冬）など

表4のように，こうした大行事以外に普段の余暇時間を利用し，小集団による外出，スポーツ，クラブ活動，さらに個人への趣味の推奨も行なっている。

(4) 余暇活動と習癖とは異なる。

習癖は，以下のような点で余暇活動と区別される。

a．それによって他人と共通した話題（コミニュケーション）が生まれない。

b．社会的に容認されにくい。

c．発展性や創造性に乏しい。

これら (1)～(4) に沿って，個人のニードに適合した余暇活動の選択が急務となる。これは特に，われわれが接する上で手掛りの少ない重度障害者にとって大きな問題と思われる。

## 参考文献


1) DeMyer, M. K., Barton, S., DeMyer, W. E., Norton, J. A., Allen, J. and Steele, R.: Prognosis in Autism,: A Follow-up Study. J. Autism & Child Schizophr. 1973, 3, 199-246.
2) 橋本　敏：自閉症施設における実践と問題点，発達障害研究，1985, 7, 200-205.
3) 橋準失語症検査作製委員会，標準失語症検査手引，鳳鳴堂，1977.
4) 近藤裕彦：年長自閉症児における言語障害の特徴について，日本心理学会第50回大会発表論文集，1986, 698.
5) 三木安正（監）：新版 S-M 社会生活能力検査，日本文化科学社，1980.
6) 中根　晃：自閉症研究，金剛出版，1978.
7) Rutter, M.: Concepts of Autism: A Review of Research. J. Child Psychol. Psychiat., 1968, 9, 1-25.
8) Schopler, E. and Mesibov, G. B. (Edit): Autism in Adolescents and Adults. Plenum Press, 1983.
9) 十亀史郎：自閉症年長児の症状と治療について—入院治療の現状とあり方—，臨床精神医学，1978, 7, 937-943.
10) 若林慎一郎：幼児自閉症の予後，精神医学，1980, 22, 244-260.